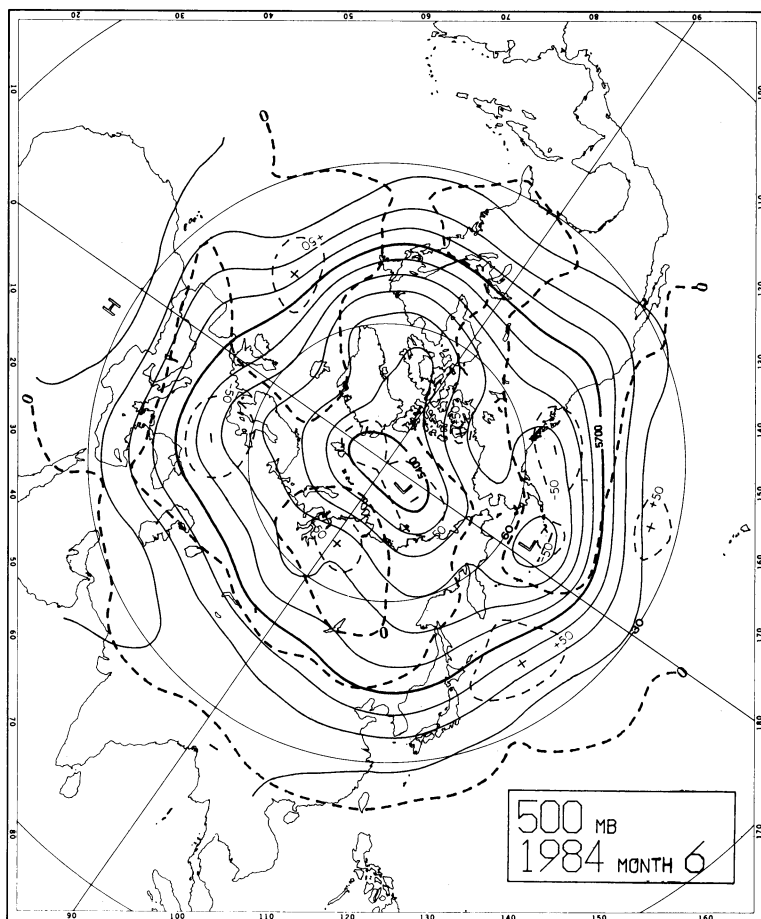


月平均500mb天気図. 1984年6月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)

**オホーツク高解消し中緯度は高圧帯に**

中緯度の30~40°N帯は、ほぼ半球にわたって正偏差域に覆われた。正偏差の中心域は、太平洋の東・西側と大西洋にある。また、負偏差域は極と50°N帯のヨーロッパ、太平洋東側に見られる。北半球の流れは前月と変わり東西流が卓越し高指数循環となった。オホーツク海で続いていたリッジに伴う偏差域は20度位南へ移り、地上でも4、5月とこの地域で高圧部が続いたが、6月は低圧部(平年偏差-2mb)となった。高気圧の南下と温暖化で三陸東方海上では、+4mbとなった。この高気圧に覆われ低温が続いた東日本以北でも、月平均気温が平年を1~3°C上回った。

90°Eの高緯度はリッジとなり、この付近の流れも前月とは変化している。ヨーロッパのトラフは東へ移りやや弱まった(-100m→-50m)が、低温域はヨーロッパからカスピ海方面にまで広がり、中心付近では2~3°C低くなっている。大西洋のリッジは相変わらず強くこの地域を覆っている。

北米大陸は西海岸が前月のリッジからトラフに変わり、東海岸は負偏差から弱い正偏差になった。この過程のなかで、ニューヨークでは上旬後半から中旬にかけて猛暑が続き、日最高気温が35°Cを越える日が数日も続いた。一方、西部では低温傾向となっている。

(気象庁長期予報課 田崎允一)